

内外の化学繊維生産動向

－ 2012年 －

2013年1月24日

日本化学繊維協会

本資料の2012年の数値は、至近の発表値をもとに日本化学繊維協会
で推定したものです。

1. 世界の繊維生産

表-1 世界の主要繊維の生産

(1000ト)

| | 全繊維 | 化学繊維 | | 綿 | 羊毛 | 絹 | |
|----------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|-----|
| | | 合繊 | セルロース | | | | |
| 2006 | 65,835 | 37,805 | 35,103 | 2,703 | 26,635 | 1,234 | 160 |
| 2007 | 68,734 | 41,312 | 38,239 | 3,073 | 26,030 | 1,221 | 171 |
| 2008 | 64,228 | 39,489 | 36,772 | 2,718 | 23,400 | 1,191 | 148 |
| 2009 | 64,654 | 41,512 | 38,551 | 2,962 | 21,896 | 1,104 | 141 |
| 2010 | 72,508 | 46,357 | 43,149 | 3,207 | 24,872 | 1,127 | 153 |
| 2011 | 78,160 | 49,623 | 45,971 | 3,651 | 27,284 | 1,102 | 151 |
| 2012 | 79,367 | 52,032 | 47,995 | 4,037 | 26,079 | 1,105 | 151 |
| 12/11(%) | 1.5 | 4.9 | 4.4 | 10.6 | -4.4 | 0.3 | 0.0 |
| 構成比(%) | 100.0 | 65.6 | 60.5 | 5.1 | 32.9 | 1.4 | 0.2 |

日本化学繊維協会推定

綿、羊毛は季節年度

- 2012年の世界の主要繊維生産（推定）は前年比2%増の7,937万トと史上最高を記録した。しかし伸び率は、リーマンショック以降順調に回復したのと比較すると、2012年は低調にとどまった。
- 化学繊維は前年比5%増の5,203万トと過去最高で、初めて5,000万トを上回った。うち合繊（オレフィン繊維を除く）は4%増の4,800万ト。セルロース繊維（アセテートトウを除く）は11%増の404万ト。
- 化学繊維の生産は、2009年以降4年連続で増加したものの、世界景気の減速もあって伸び率はやや鈍化した。繊維全体に占めるシェアは66%と綿の減少もあって前年の64%から上昇した。
- 天然繊維は、綿花価格の下落から綿が4%減の2,608万トと減少に転じた。今後も米国やトルコを中心に減産が予測されている。羊毛は、最大生産国のオーストラリアが回復の兆しを見せていることから世界全体では微増となる見通し。

図-1 世界の主要繊維の生産

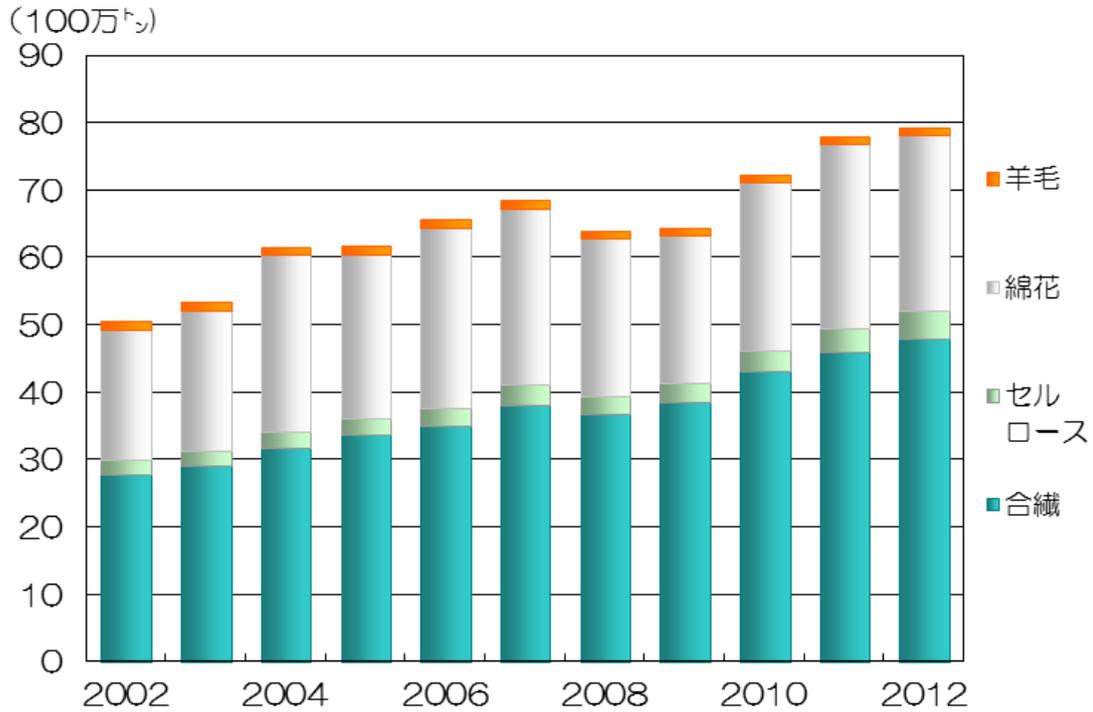


図-2 世界の主要繊維の生産推移



2. 世界の化学繊維生産

- 主要国・地域別に化学繊維生産をみると、中国は前年比11%増と増加した。また米国が5%増となった一方、台湾、日本は5%近く減少した。西欧は4%減。

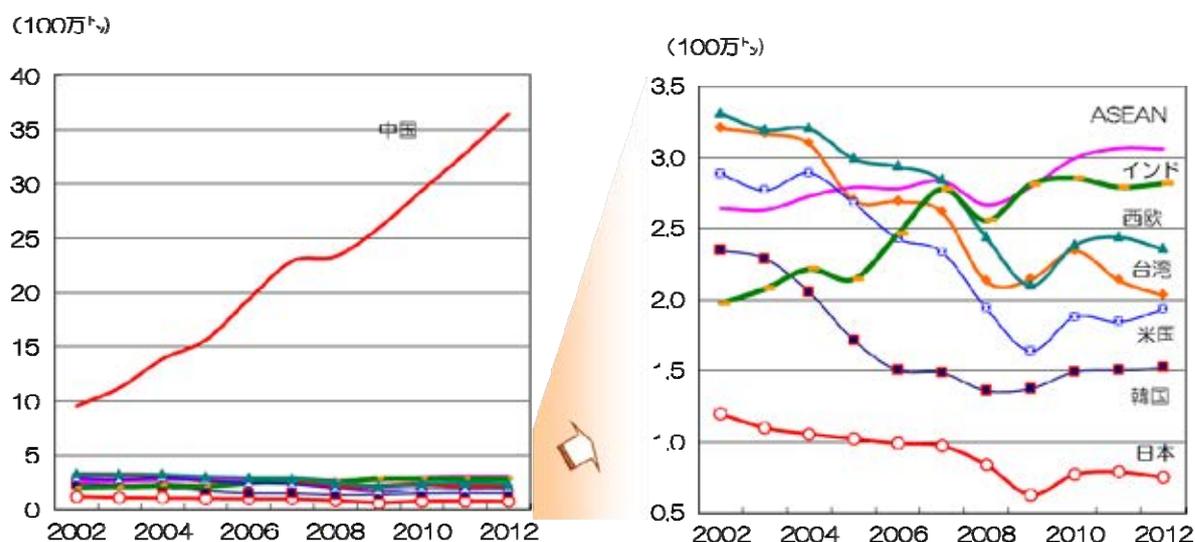
表-2 主要国・地域の化学繊維生産(2012年)

| 地域 | ポリエステル | | ナイロン | アクリル | 合繊維計 | セルロース計 | 化繊維計 | 構成比(%) |
|-------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|---------------|----------------|--------|
| | フィラメント | ステープル | S+F | S | | | | |
| 日本 | 167 -7.6 | 151 -3.6 | 99 3.1 | 140 -7.8 | 691 -4.9 | 62 -0.2 | 753 -4.5 | 1.4 |
| 韓国 | 786 3.3 | 526 -1.1 | 135 0.0 | 48 2.0 | 1,522 1.4 | 3 -3.7 | 1,525 1.4 | 2.9 |
| 台湾 | 939 -9.5 | 562 0.7 | 336 -0.2 | 69 -26.9 | 1,933 -5.9 | 97 18.8 | 2,030 -4.9 | 3.9 |
| 中国 | 20,759 8.5 | 9,568 8.5 | 1,885 18.5 | 704 0.7 | 33,995 10.6 | 2,460 19.0 | 36,455 11.1 | 70.1 |
| ASEAN | 1,354 1.8 | 888 -6.8 | 117 6.5 | 125 4.2 | 2,484 -1.1 | 577 4.2 | 3,061 -0.2 | 5.9 |
| インド | 1,395 0.6 | 893 3.9 | 104 9.2 | 76 -2.2 | 2,469 2.0 | 348 -6.0 | 2,817 0.9 | 5.4 |
| 米国 | 570 11.7 | 638 10.1 | 563 -4.9 | 0 0.0 | 1,908 4.9 | 25 -0.3 | 1,933 4.8 | 3.7 |
| 西欧 | 342 -17.8 | 541 1.2 | 345 -11.5 | 607 3.1 | 1,902 -4.9 | 452 2.9 | 2,354 -3.5 | 4.5 |
| 世界計 | 26,805 6.2 | 14,786 5.7 | 4,029 6.5 | 2,044 -0.6 | 47,995 4.4 | 4,037 10.6 | 52,032 4.9 | 100.0 |

(注) 1.上段は生産量、下段は前年比(%) 2.推定を含む
3.オレフィン繊維、アセテートトウを含まない

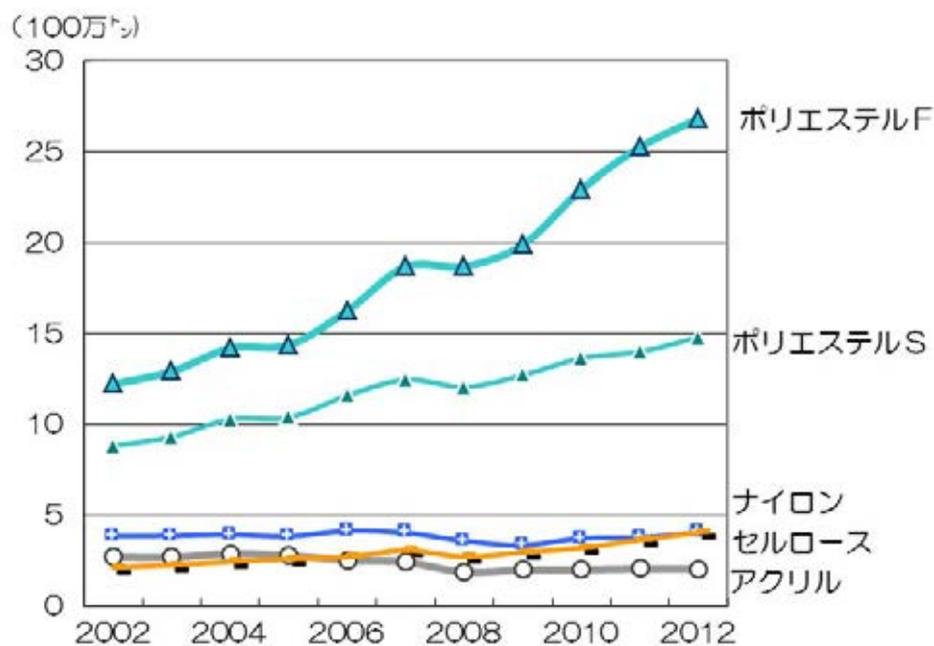
- 中国は11%増の3,646万ト。年後半にかけ伸びが大きくなった。世界生産に占める割合は前年の66%から70%に拡大した。

図-3 世界の主要国・地域の化繊生産



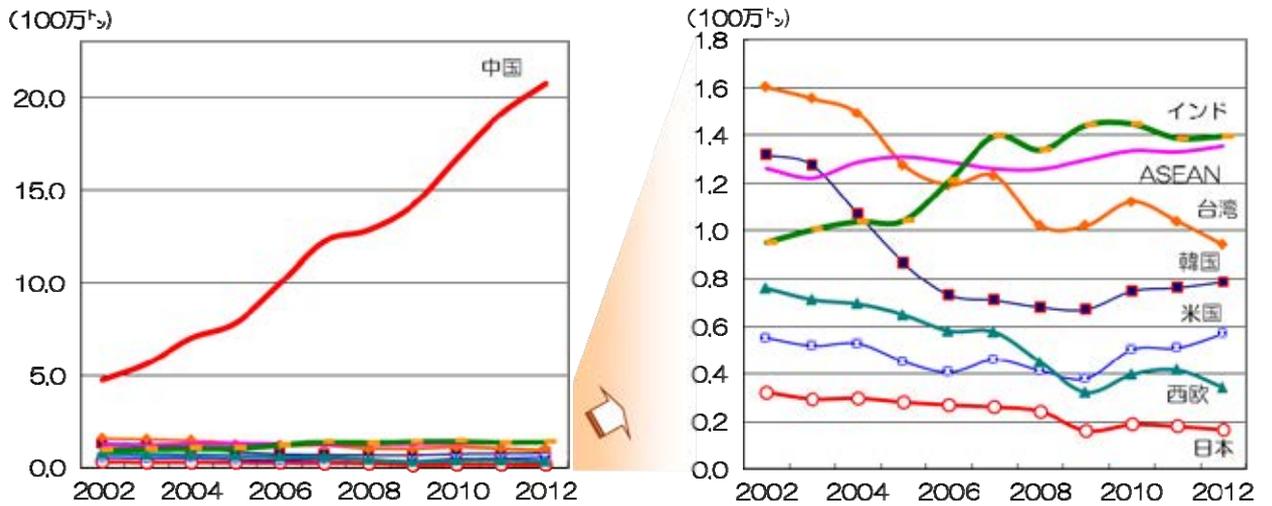
- 中国のほかに前年を上回った主要国・地域は、米国がポリエステルFの好調により5%増となった他は、微増もしくは減少となった。
- このうち、台湾、日本は5%近く減少した。経済不振の西欧はポリエステルFおよびナイロンFの大幅減の影響で4%減。台湾は主力のポリエステルFの大幅減により全体で5%減。日本はポリエステルおよびアクリルが不振で全体で5%減となった。
- 主要品種別では、アクリルSが微減となった他はいずれも増加した。
- ポリエステルは、フィラメントが前年比6%増の2,681万ト、ステープルが6%増の1,479万トであった。フィラメント、ステープルをあわせたポリエステルの化繊生産に占める割合は80%と2011年から1ポイント上昇した。
- ナイロンは7%増の403万ト。フィラメントは7%増、ステープルは2%増。
- アクリルSは1%減の204万ト。台湾（27%減）、日本（8%減）が減少した。
- セルロース繊維は11%増の404万ト。中国は19%増の246万ト。

図-4 世界の主要化繊品種の生産推移



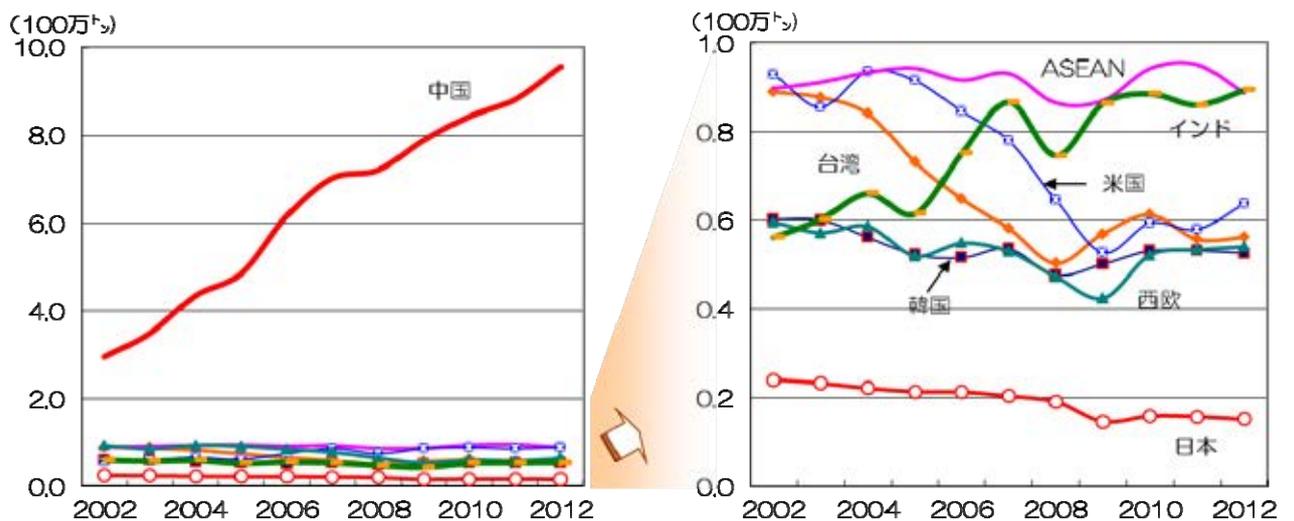
- ポリエステルF：前年比6%増の2,681万トと過去最高。世界の77%を生産する中国が9%増となった。米国が12%増、韓国が3%増と増加した。一方、欧州（18%減）、台湾（10%減）、日本（8%減）が減少した。

図-5 世界の主要地域別ポリエステルF生産



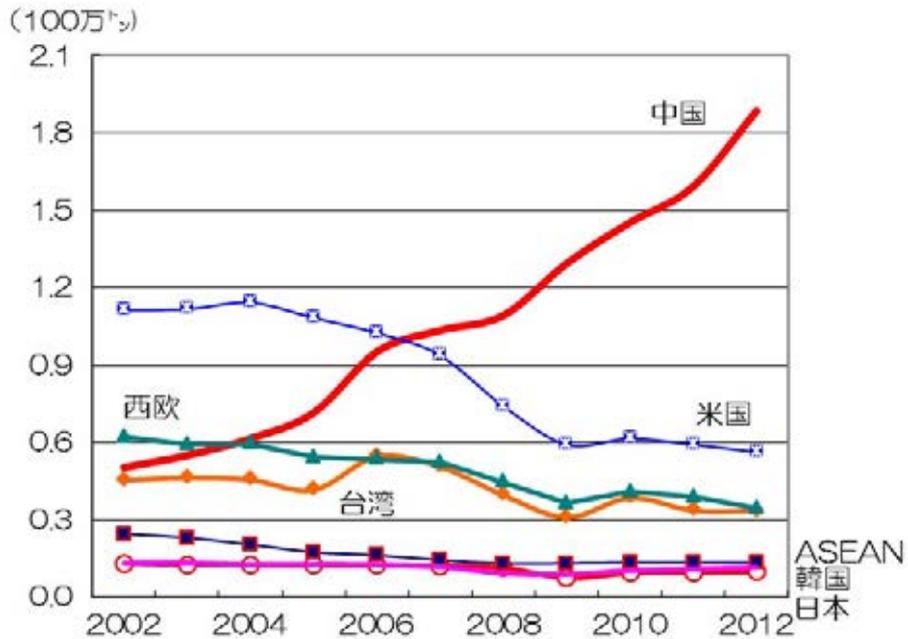
- ポリエステルS：前年比6%増の1,479万ト。中国が9%増、米国が11%増と大幅に増加した。一方、ASEANは2011年からのタイにおける洪水の影響で7%減となった。

図-6 世界の主要地域別ポリエステルS生産



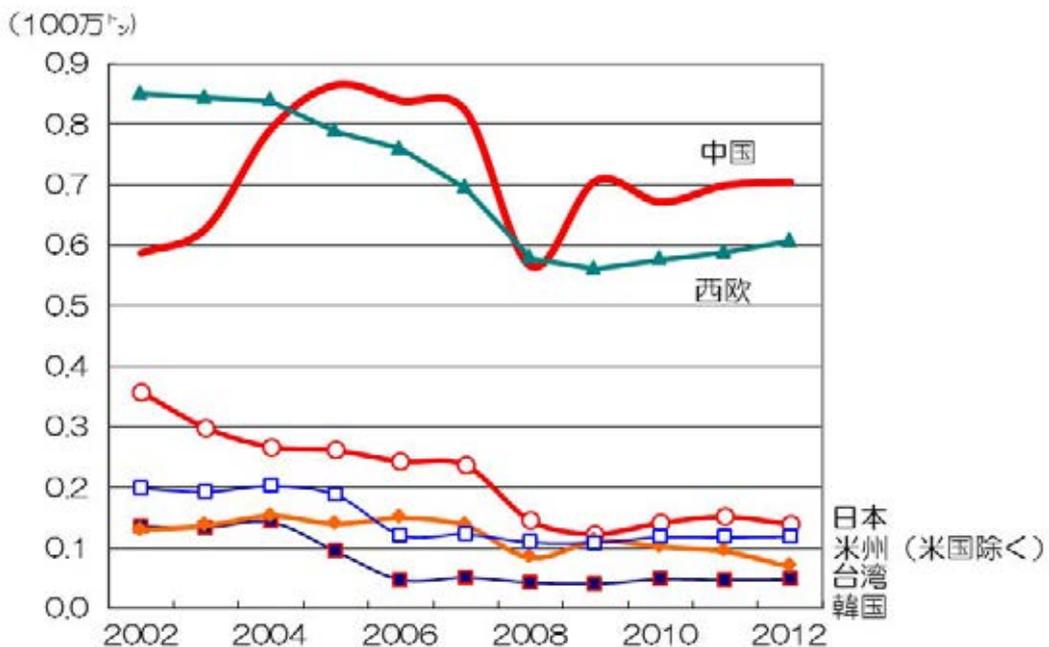
- ナイロン：前年比7%増の403万ト。中国が19%増と大幅に増加した。一方、欧米では米国が5%減、西欧が12%減と減少した。米国はカーペット用ナイロンFのポリエステル代替が進行している。

図-7 世界の主要地域別ナイロン生産



- アクリルS：前年比1%減の204万ト。中国がほぼ横ばいの70万ト。西欧は3%増の61万ト。一方、日本は8%減の14万ト。

図-8 世界の主要地域別アクリルS生産



3. 日本の化学繊維生産

- 2012年の日本の化学繊維生産は前年比4%減の98万ト(オレフィン、アセテートトウを含む)と減少に転じた。内訳では合繊が5%減、セルロース繊維が横ばい(0.1%減)となった。

表-3 日本の主要化学繊維の生産

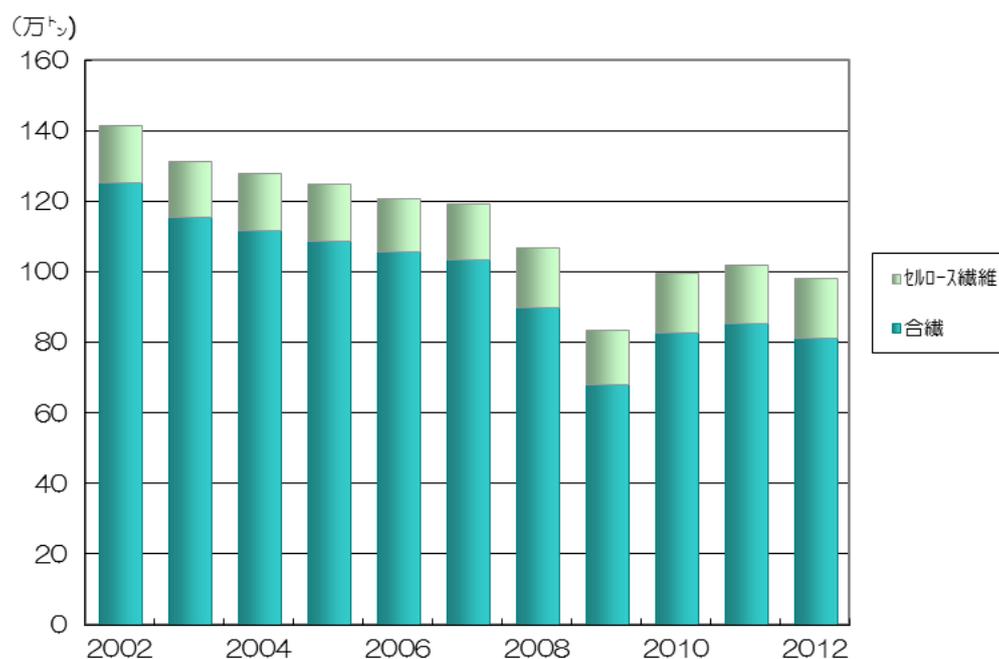
(1000ト)

| | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 12/11% |
|---------|-------|-------|---------|-------|--------|
| ポリエステルF | 163.0 | 188.5 | 180.8 | 167.0 | -7.6 |
| ポリエステルS | 146.2 | 158.4 | 157.1 | 151.5 | -3.6 |
| ナイロンF | 73.6 | 93.0 | 95.0 | 98.1 | 3.3 |
| アクリルS | 123.6 | 141.5 | 151.6 | 139.9 | -7.8 |
| ポリプロピレン | 107.3 | 114.5 | 120.8 | 120.8 | 0.0 |
| 合繊計 | 682.3 | 829.4 | 854.4 | 812.3 | -4.9 |
| レーヨンS | 35.5 | 33.8 | ... | ... | ... |
| アセテート | 104.3 | 116.5 | ... | ... | ... |
| セルロース計 | 152.5 | 168.7 | 167.9 | 167.8 | -0.1 |
| 化繊計 | 834.8 | 998.0 | 1,022.3 | 980.1 | -4.1 |

(出所) 経済産業省

(注) オレフィン、アセテートトウを含む。

図-9 日本の化学繊維生産推移



- 合成繊維の生産は5%減の81万トと減少した。リーマンショック以降、合繊生産は回復が続いたが、3年ぶりの前年割れとなった。品目別では、ナイロンFが3%増となった他は、ポリエステルはフィラメントが8%減、ステープルが4%減、アクリルSが8%減といずれも減少した。
- セルローズ繊維の生産は横ばい（0.1%減）の17万ト（経産省の統計品目見直しにより、品目別内訳は不明）。

図-10 日本の主要化合繊生産

